北海道総合地質学研究センター　第18回公開講座（2025年9月6日 土曜日）
北海道教育委員会2025年度前期道民カレッジ講座（教養コース）指定
後援　札幌市教育委員会

失われた川を尋ねて
サッポロ川物語

アイヌの人たちがサッポロペッ（乾く大きい川）と呼んだ川は現在の豊平川から伏籠川へ流れていた。
サッポロ川は、支笏湖の北西にそびえる小漁山や漁岳を源流とし、札幌岳などの山あいを抜けて札幌扇状地を造ってから、湿原を通って石狩川に合流していた。川名の由来は、中流域の豊平川扇状地が乾きやすい土地だったことによっている。
講演では、アイヌ語地名の紹介、豊平川扇状地・札幌の川の変遷など、写真や絵図で紹介します。

講 師/ 宮坂 省吾（北海道総合地質学研究センター理事、シニア研究員）
長野県出身、北海道大学理学部卒業、理学博士、元日本地質学会北海道支部長

日時：2025年9月6日（土）13：30～15：30（開場予定 13：00）
会場：かでる2.7（北海道立道民活動センター、札幌市中央区北2条西7丁目、730研修室）
参加費：1,000円（高校・大学生，会員は半額）　参加定員：50名（先着にて受付）
申込期限：2025年9月4日（参加定員に余裕があれば前日まで受付ます）
参加申込・問合せ先：E-mail office@hrcg.jp　Tel. 080-5830-2016
主催：特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センター（https://www.hrcg.jp/）

講義の概要

北へ流れていたサッポロ川（乾く大きい川）の最古の地図は、18世紀中頃に材木商が使った「石狩山伐木地図」である。その50年ほど後にツイシカリ川にサッポロ川が流れ込んだ西暦1801年頃の洪水事件が最初の文字記録として残された（遠山・村垣 1806）。

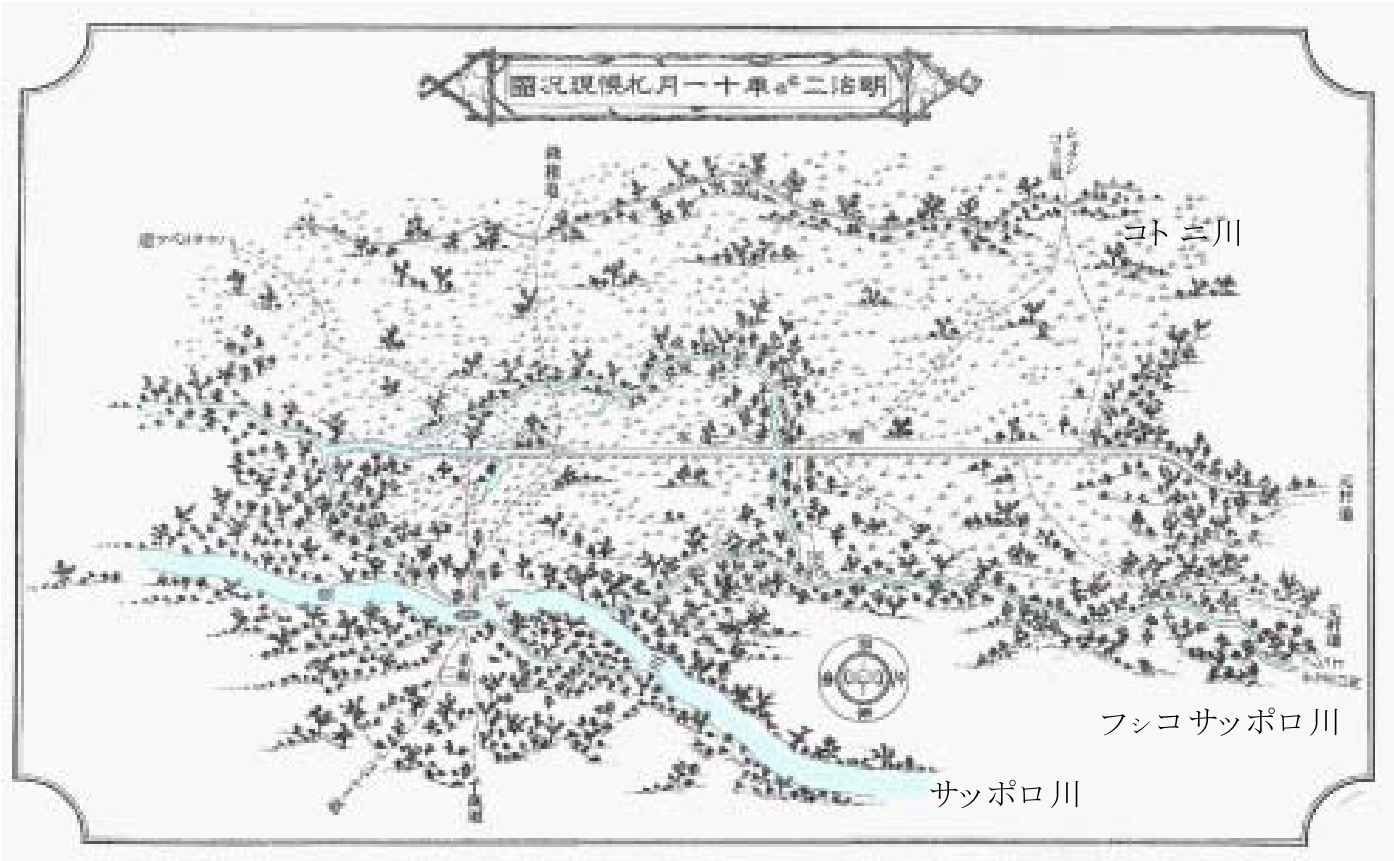
札幌在住のアイヌが伝えた1830年頃の巨大洪水により、放棄されたサッポロ川の下流はフシコサッポロペッ（古いサッポロ川）と名を替え、新しいサッポロ川は一条大橋付近から東へ流れて江別市の旧対雁地区（現在は工栄町）で石狩川に合流していた。

この川を管理した開拓使は、1877(明治10)年に豊平橋上流を「札幌川」・下流を「豊平川」と改名した後、上下流をともに「豊平川」とした。

豊平川の氾濫は明治～大正時代にも絶えず、唯一の渡りであった豊平橋もしばしば落橋した。札幌本府や山鼻屯田を守る治水事業が進められたが、旧河道や分流口を起点とした洪水は避けられなかった。

1913(大正2)年の“大正大洪水”は扇頂域を破壊しただけではなく、扇央から市街にも氾濫した。平岸の崖縁を流れていた豊平川は分流口を洪水堆積物で塞がれ、精進川の下流となった。

その後に行われた治水事業で河川災害は減少したが、1981(昭和56)年豪雨の“昭和大洪水”によって山地小河川や豊平川の氾濫が発生している。



明治2年11月札幌現況図: 殖民公報　第1号口絵　1901(明治34)年/ 高見沢権之丞

講演者のプロフィール

宮坂　省吾（みやさか　せいご）

北海道総合地質学研究センター理事
元日本地質学会北海道支部長

略歴

長野県出身

1971 年　北海道大学大学院修士課程終了

1987 年　「日高山脈の上昇史」で理学博士

1992年　株式会社アイピー入社、以来地質コンサルタントとして北海道内で活動。
近年は札幌の川の変遷・豊平川の洪水などをテーマに調査・研究に取り組んでいる。

著書　「札幌の自然を歩く」（第3版）、「北海道自然探検　ジオサイト107の旅」（いずれも北海道大学出版会）
「揺れ動く大地　プレートと北海道」（北海道新聞社）
「札幌の地名がわかる本」（アリス社）　（いずれも共著）